

第1回県立高等学校編成整備懇話会概要

開催した会議の名称	第1回県立高等学校編成整備懇話会
開催日時	平成23年3月25日（金）15：00～17：00
開催場所	（所在地）〒900-8571 沖縄県那覇市泉崎1丁目2番2号 （会場名）沖縄県庁13階第2会議室
出席者	委員 北川委員、城間委員、前新委員、前泊委員、 三村委員、宮城委員 事務局（総務課） 前原課長、渡久山主任指導主事、桃原指導主事、 大嶺主事
会議の公開・非公開	公開
傍聴者の人数	なし
会議の概要	<p>1 開会</p> <p>2 教育長あいさつ</p> <p>3 委員自己紹介・事務局自己紹介</p> <p>4 設置要綱の説明</p> <p>5 会長の選出・あいさつ 前新委員より、前泊委員を会長に推挙する案が出され承認された。</p> <p>6 会長代理者の指名 前泊会長から、前新委員が指名された。</p> <p>7 事前配布資料の説明（事務局）</p> <p>8 議題</p> <p>（1）会議の公開、非公開の決定について 本懇話会について公開とすることと決定した。 併せて、事務局から出された「傍聴要領【案】」について、審議され案のとおり決定された。</p> <p>（2）県立高等学校編成整備の基本方向【素案】については、高校教育について委員全体の共通理解を深める意味で、素案の1ページから8ページ〔I 本県県立高等学校編成整備の現状と課題〕までの質疑を中心に、フリートーキング形式でいきたい」と提案があり、その方向で進められた。 各委員からの質問及び回答、意見は下記のとおりである。 質問についての未回答分や、意見に対する回答については、回答作業を次回までに行う。</p> <p><主な質疑> 中等教育学校について</p> <p>○ 素案P4の表、沖縄インターナショナル中等教育学校の必要性はあると考えているか。 【回答】→・地域の意見は、アジアに目を向けることを考えれば肯定的な意見が多い。 ・高校の学校長は否定的な意見が多い。</p> <p>○ 那覇中等教育学校にこだわる理由は何か。</p>

【回答】→・現行編成整備計画の継続検討事項として考えている。

- 中部地区にできるアミークスとの関連等を考えると、中部地区はいかがなものかと思う。公教育の中で考えるのならば、全県区で特化した形、新設で進めるほうが良いと思う。

総合実業高校について

- 南部総合実業高校について、同窓会等の反対にあっているが統合を進める理由は少子化の影響があると考えているが、その真意はどこにあるか。
- 南部農林高校からの反対の趣旨はどういったものか。
- 南部農林は志願者は少ないのか。南部工業に人気のある学科を作って定員を増やすことは考えないか。

【回答】→ 南部総合実業高校については、南部工業高校の志願者減少が当初の問題だったが、現在工業高校が活性化が著しく、そのことが再編の難しさにもつながっている。

平成22年に、南部農林は6クラスから5クラス、工業も同様に3から2に減じた結果、定員が充足した経緯がある。

連携型中高一貫教育校について

- P5に「伊良部高校については進路決定率100%を2年間達成するなど、成果を挙げており一定の評価を受けています」とあるが、その評価は連携型中高一貫教育の成果なのか。もしそうだとしたら、他の2校も同様な成果が得られるべきではないか。他の2校については、進路決定率100%ではない理由は何か。

【回答】→ 連携型と進路決定率の相関についてデータは、県立学校教育課と調整して後日提示する。

- 連携型をどう評価しているのか。今後も続けていこうと考えているのか。

【回答】→ P14⑦高等学校（学科）の適正な配置で中高一貫教育校の方向性について触れている。連携型については「中学校との連携を強化し、さらに教育内容の充実を図ること」とし、新設については触れてない。

- 連携型3校について、中学・高校職員の交流はどの程度されているのか。学校によって差があるのか。

【回答】→ 久米島では、町内3中学校と地域行事や授業研究がなされていると聞いている。

- 交流であって、いわゆる一貫教育ではない。一貫教育を実施するのであれば、カリキュラムの部分から6カ年を通してやらなければ深まりは望めないのではないか。

- 地域、職員の評価はどうか。

【回答】→ 一様に「入試がないから、中学生がやる気がおこらない」というのが同一の意見である。それと、学校間の距離が遠いということが連携を阻んでいる要因であると聞いている。

- 他都道府県では、中高一貫教育校に希望が殺到するという実態があり、それはほとんどが伝統校に中高一貫教育校が配置されたからである。ところが沖縄県の場合は、定員確保のために設置されているという違いがある。

また、理念として学力検査がないことが「勉強をしなくても高校に行ける」という悪いイメージにつながっている。現在設置されている3校について課題を総点検し、どうすれば

	<p>連携型が深まるかということをお我々は考えないといけないと思う。</p> <p>併設型中高一貫教育校について</p> <p>○ 併設型中高一貫高校について、どうして併設高校に進まないで、他の高校に進学するのか。どういう状況か。</p> <p>【回答】→ 課題として、中学校から高校に進学する際、他高校へ成績上位者が流出していること、特進クラス以外のクラスでの学力差が著しいこと、部活動等における学校施設の共有で不具合が生じている等が挙げられている。</p> <p>○ 沖縄の場合は、新たな学校づくりを始める場合「ことを進めながら課題を克服していこう」というスタンスが一般的であるのに対し、県外は整備を徹底した上でスタートする。この違いが成果の差として現れている。</p> <p>本計画においては、きちんとした方向性、整備をしっかりとやった上でスタートしなければ、また同じ過ちを繰り返すのではないかという感じがする。この点を含めて次回以降の課題としたい。</p> <p>(3) 次回懇話会日程について 日程調整をした上で、会長と事務局で調整し各委員へお知らせする。</p>
<p>会議資料</p>	<p>資料1 懇話会次第(案)</p> <p>資料2 県立高等学校編成整備に関する懇話会設置要綱</p> <p>資料3 懇話会委員一覧</p> <p>資料4 会議の公開・非公開の決定について</p> <p>資料5 次期県立高等学校編成整備に係るアンケート調査のまとめ(概要)</p> <p>資料6 県立高等学校編成整備計画基本方向(素案)</p> <p>資料7 これまでの編成整備計画の沿革</p>
<p>問い合わせ先</p>	<p>担当課 沖縄県教育庁総務課教育企画班(渡久山・桃原)</p> <p>電話 098-866-2705</p> <p>FAX 098-866-2710</p>